

帝京大学ラーニングテクノロジー開発室 10周年記念シンポジウムを開催します！

ラーニングテクノロジー開発室は、2003年10月の設置以来、授業改善のためのテクノロジーの普及と利用支援に取り組んできました。設置から10年を迎える節目に、教育における情報通信技術(ICT)の活用をテーマとしたシンポジウムを開催します。本シンポジウムでは、各キャンパスにおける授業改善に向けたICT活用の取り組みについて情報共有した上で、教育を支援するテクノロジーの全学的な活用の今後について考えます。

近年、高等教育において、ICTは授業改善の手段として広く活用されています。たとえば、2010年度における国内大学のICT活用状況についての調査結果^[1]によると、多くの大学において、授業に関する教材の提供、学務情報の伝達、自学自習などのために、ICTが活用されています。具体的なICTツールとしては、パワーポイント等のスライド、Web上の教材コンテンツ、ストリーミングビデオなどが活用されています。また、約3割の大学において、インターネット等を用いた遠隔教育が実施されています。

本学においても、授業改善のためのICT活用が全学的に広がりつつあります。たとえば、eラーニングの基盤システムであるLMSを活用した科目数は毎年増加を続けており、2012年度には388科目で活用がありました。近年では、LMS活用歴の長い宇都宮キャンパスに加えて、八王子、板橋の両キャンパスにおいても、一定数の科目で活用するようになってきました。また、LMSの活用事例を紹介するファカルティ

ディベロップメント(FD)関連のイベントやLMS講習会などへ参加して、LMSを積極的に活用しようとする教職員も増えてきました。八王子キャンパスと宇都宮キャンパスの教職課程では、履修者カルテを管理する本学独自の教職カルテシステムの活用が進んでいます。これらのほかにも、様々なICT活用が行われています。

一方、本学の教育力の発展に向けたFDの取り組みにも新しい動きがあります。従来、FD関連セミナー・フォーラムの定期開催、授業アンケートなどを行ってきました。これらに加えて、たとえば、八王子キャンパスでは、教員の教育業績の評価や教育活動の振り返りのためにティーチングポートフォリオの導入が始まりました。また、各キャンパスにおけるFDの取り組みについて、全学で情報共有したり意見交換したりするための帝京大学FDネットワークという仕組みが徐々に動き出そうとしています。

本シンポジウムは、この帝京大学FDネットワークの活動の一環として開催します。シンポジウムでは、各キャンパスからの講演、総合討論の後に、ICTの活用やFDの取り組みなどの教育改善に関すること全般についてディスカッションできるポスターセッションを予定しています。

教育改善に向けた全学の取り組みについて情報交換できる絶好の機会ですので、是非ご参加ください。

[1] 平成21年度・22年度 文部科学省先導的の大学改革推進委託事業「ICT活用教育の推進に関する調査研究」委託業務成果報告書、http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1307264.htm

帝京大学ラーニングテクノロジー開発室10周年記念シンポジウム 「教育を支援するテクノロジーの全学的な活用を目指して」

- ・日時：2013年8月28日（水） 13:30～
- ・会場：帝京大学 宇都宮キャンパス 地域経済学科棟 101教室
- ・参加申込締切：8月20日（火）

※詳しくは、LT開発室Webサイト(<http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/activity/10symp>)をご覧ください。

LMS活用授業レポート

復習用の小テストで事後学修を促進している活用例



今回は、情報処理センター長、文学部社会学科の池周一郎先生にお話を伺います。

LT どのように使っていますか。

池先生 事後学修を促進するため、復習用の小テストをほぼ全科目で使っています。学生

には、成績評価に含めると伝えて次の授業までの間に2回受験できるようにしています。最初は、本学の学生には正確な知識を身につけるということが不足していると感じ、情報社会環境論で扱っている「TCP/IP」「JPNIC」といった用語や略語などの知識を正確に覚える工夫として使い始めました。他に、コース内のメール機能を使って連絡事項を伝えています。良い質問が出た場合には、質問と回答を全体に配信して共有したり、授業で人名などをまちがって言ってしまったらそれを訂正するのに使ったりしています。

LT お使いになってみていかがでしょうか。

池先生 小テストを15回分きっちりやる学生がいる一方で全くやらない学生もいます。多くの学生はそこそこの割合で小テストに取り組んでいますが、彼らはLMSがなければ全く復習をしないか、ちょっとしか復習しないのではないのでしょうか。LMSを使うことで事後学修への取り組みを最低水準に持ち上げるという効果があると思われます。ただしテストの正解は見せていないので、どのようにして自分で正解を得るかといったフィードバックの方法が難しいと感じています。今のところフィードバック機能は手抜きして殆んど使っていませんので、ここをもう少し作り込まなければと思います。LMSは小テスト機能を使うところに大きな利点があると思えます。自動採点できて成績も記録されるところがとても良いですね。

LT 学生の反応はいかがでしょう。

池先生 積極的に勉強をするという雰囲気が全体に希薄ですが、授業後に小テストの掲載を忘れていたら、「先生、載せてないですね」などとリクエストが来ることもあり、見ている学生はまめにチェックしているなどと思います。

テストの確認：世論調査の始まり	
説明	
手順	
制限時間の設定されたテスト	このテストには制限時間が設定されています。時間切れになったら通知が表示され、続行または提出 残り時間が半分、5分、1分、および30秒のときに警告が表示されます。【このテストのプレビュー時に
複数回の試行	このテストは2回受験することができます。これは1回目のテストです。
強制完了	このテストは提出せずに保存して、後から再開することができます。
※質問完了ステータス:	
すべて	
質問 1	
世論調査は、選挙の予測を契機としてアメリカで始まったとされている。初めのころは、人の集まるところで 行われていたが、やがて、新聞社、[]、調査会社が自分たちの情報の正確さをアピールするた めに[]年のアメリカ大統領選の予測は、[]の発進において重要な意	

LT 一部の学生にとっては、必須のツールとなりつつあるようですね。今後はどのようなことをお考えでしょうか。

池先生 事前/事後の学修時間を確保するという社会的要請もありますので、小テストのボリュームアップなど、もう少し勉強する時間を増やしていくための工夫をしたいですね。マルチメディアの利用やファイルの添付などの他の機能も使うことを考えています。ただ、LMSにすべての教材を載せるのではなくて、学生が教科書を買う習慣はつけるべきだと思います。対価を払うことが「この知識を身につける」というモチベーションにつながると考えるためです。その上で、学修を補助することが大切です。丁寧に教材を作ってLMSに積極的にupするなど、より学修を補助できるよう努力していきたいと考えています。

LT LMSでの学修が浸透して、多くの学生にとって必須のツールとなることを期待したいと思います。ありがとうございました。

LMS Tips

- ◆ 教員向けマニュアル「LMSハンドブック 教員用」について
- ◆ LMSの利用状況を確認する

Tipsは帝京大学LMSサポートサイトからご覧いただけます。（<http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/>）

編集後記

子供たちが夏休みに入り、ラジオ体操に向かう声が目覚めるようになりました。早起きは三文の徳と申しますが、少し早めから体を動かしてリフレッシュできているのかなと思う今日この頃です。4月から小島一晃先生と宮越夏美さんを新スタッフとして迎え、8月にはLT開発室10周年記念シンポジウムを開催します。皆で頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。（渡部）

